

RACE REPORT

Japanese Endurance Race
Super Taikyu

Auto Labo

ENEOS **BRIDGESTONE**

#290 AutoLabo Racing 素ヤリス

ENEOS スーパー耐久シリーズ2024 Empowered by BRIDGESTONE
第7戦 S耐ファイナル 富士

日時：2024年11月16～17日 サーキット：富士スピードウェイ
予選日：2024年11月16日 決勝日：2024年11月17日

ドライバー：Aドライバー横尾 優一 Bドライバー村田 悠磨
Cドライバー伊藤 大輔 Dドライバー安原 優弥

< STEL専有走行 >

いよいよ最終戦を迎えたスーパー耐久。今回は24時間以来となる”伊藤大輔”選手がCドライバーとして参戦。Dドライバーにはヤリスカップからのステップアップとして、”安原優弥”選手がスーパー耐久初参戦を果たすこととなった。金曜日の午前に行われた90分間の専有走行はレインコンディションとなり、まずは村田から走行開始となった。コース、マシン共に確認しながら周回を重ねていった。続いてマシンに乗り込んだのは安原。初走行にしては難しいコンディションの中ではあったが、着実にタイムを上げていき、午前の専有走行が終了。午後の専有走行は路面も渴き始めていたが、霧が濃くなり走行がキャンセルとなってしまい、走行できずに終了となった。



< 予選 > 15位 / 15台中

予選日はドライコンディションとなり、午前中に35分間のウォームアップ走行が行われた。まず横尾がコースインしていく。そして、安原、村田と僅かな時間の走行ではあったが、そんな中、村田が右フロントを接触させてしまう。大きなクラッシュにはならず、その後、伊藤にドライバー交代をし、マシンのチェックを行った。マシンは問題なく、午後の予選に向けマシンチェックを行った。午後1時20分にAドライバー予選が始まる。横尾は4周を走行し、タイムは2'10.160。Bドライバー予選の村田も4周を周回しタイムは2'09.901。合算タイムにより決勝は15番手からのスタートとなった。Cドライバー予選の伊藤、Dドライバー予選の安原も予選を早々と終え、明日の決勝に備えた。



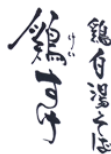
AutoLabo Racing PARTNERS

 **YOSHINO MOTORS**

 株式会社 **ミライズ**

 **KTC**


光自動車


Tobira

 **Factory**


Ride

RACE REPORT

< 決勝 > 11位 / 15台中

決勝日は朝から晴天に恵まれ、気温はお昼の段階で23度と11月の富士スピードウェイとは思えないような暖かさとなった。全9クラス65台のマシンが4時間後のチェッカーを目指し、12時30分にスタートが切られた。スタートドライバーは横尾が務め、順調にレースを運んでいく。しかし、12周目にST-3クラスのマシンによるアクシデントが発生。ガードレールを大きく破損している事から、FCY（フルコースイエロー）となり、その後、セーフティカーが導入されたが、赤旗中断となった。14時20分にセーフティカー先導でレース再開となった。レース再開となった18周目にドライバー交代を行った。バトンを受け取ったのは、安原。



安原は初参戦ながらも落ち着いた走りを見せ、順調に周回を重ねていった。マシンの状態もよく、クラス11番手を走行していた。懸命に前のマシンを追い、レースも残り1時間30分を過ぎた頃、一台のマシンがダンロップコーナー手前でクラッシュ。またしてもガードレールを大きく破損したことにより、2度目の赤旗中断になってしまう。約1時間の中断後、レースも残り30分となる16時に再開された。レース再開後ピットインを行い、今シーズン最後のスティントを任されたのは村田。1つでも順位をあげようと走行を続けていたが、残り11分となったところで、4度目のFCYが導入。残り6分でレース再開するも、最終戦は11位でチェッカーとなった。1年間応援ありがとうございました。これからも更なる挑戦を続けて参りますので、引き続き、応援の程宜しくお願い致します。

< 代表コメント >

3年間続けてきた素ヤリスでの挑戦。まだ戦える位置にはいませんが、来年も挑戦して参りますので、応援よろしくお願い致します。今シーズンも共に戦ってくれたスポンサー様、パーツサプライヤー様、ドライバー、メカニック、マネージャー、レースクイーン、ファンの皆様。僕の挑戦に力を貸して頂き本当にありがとうございました。



AutoLabo Racing PARTNERS

